

## 第6回江南市市民協働・市民活動推進協議会 要旨

会議名：江南市市民協働・市民活動推進協議会 市民活動センター視察

開催日時：平成30年11月13日（火）午後1時～午後5時

場所：小牧市市民活動センター、大口町民活動センター

委員：出席委員8名

伊藤 由香（学識経験者）

後藤 正敏（公募市民）

中村 健一（公募市民）

真野 由夏（公募市民）

齋藤 雅治（市民活動団体関係者）

早瀬 裕子（市民活動団体関係者）

水野 浩子（市民活動団体関係者）

坪内 俊宣（市職員）

事務局：矢橋 尚子（地方創生推進課地域協働グループリーダー）

加納 康陽（地方創生推進課地域協働グループ）

質問に対する各センターでの回答

### ○センターの来場者・利用者数の推移（直近5年）

（小牧市）相談及び助言、団体の交流など総利用件数及び総利用者数は減少している。土日の利用が減少したため、日曜日を休館日とし、団体が活動している現場に出向き、日頃の活動での課題等を伺い、交流するようにしている。

団体が使用できる印刷機を配置しているが、印刷機の利用には大きな変動はない。

（大口町）登録団体数、利用者数ともに増加している。町民活動センターの運営を行っている「まちねっと大口」が、自治会や子ども会、文化協会、体育協会、スポーツ少年団、NPO・ボランティア団体等の事務局を行っており、非営利で不特定多数の方が登録できる団体であれば、登録料2,000円を支払うことで登録でき、印刷機や交流スペースを利用することができる。

スタッフの対応時間は、午前9時～午後5時まで、それ以降は1階の総合受付の受付簿に記入すれば鍵を借りられるので、センターを午後9時まで利用できる。

### ○センターのスタッフについて

・スタッフの勤務体制はどのようになっていますか（常勤・パートの人数や勤務時間、給与等）

（小牧市）常勤4名（うち3名は市の委託料に人件費を計上、1名はこまき市民活動ネットワークが雇用している。）

(大口町) 常勤2名、パート職員3名 (常勤職員は月給制、パート職員は時給制)

・スタッフに対して研修を実施していますか

(小牧市) 新規スタッフに対して、市の臨時職員向け接遇研修を受講している。

(大口町) スタッフ向けの研修として開始しているものはないが、他市町のセンターで行われる研修に積極的に参加している。「まちねっと大口」自体も市民活動団体であるので、自分たちの興味のある講座の開催することで、スキルアップを図っている。

・役所の職員とスタッフ、スタッフ同士の情報共有はどのように行っていますか (日報・業務報告等)

(小牧市) 月1回、連絡調整会議を行い、相談内容等をまとめた月例報告書を提出している。事業ごとに実績報告書を作成し、提出している。

(大口町) スタッフごとに担当している事業が異なるため、スタッフ同士の情報共有は事業別の日報で行っている。

○契約について

(小牧市) 単年度の「随意契約」を行い、市の予算には「委託料」として計上している。選定利用は以下の5点

(1) 「こまき市民活動ネットワーク」が、各市民活動団体を支援するための中間支援団体であること。

(2) 「こまき市民活動ネットワーク」の設立にあたって、個人・市民活動団体・企業から100名以上の賛同が得られたこと。

(3) 「こまき市民活動ネットワーク」が、市民活動に関する条例案と市民活動センター設立に関する提言書を精力的に作成したこと。

(4) 市民まちづくりセミナーをはじめ、小牧市との協働事業に実績があること。

(5) 平成17年度の開設から継続して小牧市市民活動センター管理・運営業務を請負い、業務に関するノウハウを持っていること。

(大口町) 協働委託事業として委託しており、業者の選定は、公募型、事業提案型があるが、事業を担うことができるのが町内で活動している団体では「まちねっと大口」のみであるため、1者随契としている。

町民活動センターの設立に関わった「まかせてねっと大口」(現 まちねっと大口)からセンターの運営をよく理解しているため。

役務については、町とまちねっと大口で割り振っている。事業による成果物も町と協議の上、まちねっと大口も所有できるようにしているものもある。

## ○人材育成や研修、交流促進事業について

(小牧市) 以下の5つの事業を実施している。

「NPO 講座」(年2回) 出前講座と小牧市の助成金講座

「分野別交流会」(年2回) 市民活動団体が6つの活動分野に分かれて地域課題の解決について話し合う。

「まちのかたり場」市民自治の推進を目的とし、市民が気軽に参加できる「対話の場」として開催。市内6地区に分かれて地域課題の解決について話し合う。

「まちを育む市民と行政の協働交流会」市民活動団体と行政各課による交流会。協働の推進を目的に地域課題を共に学びあい、情報交換を行う。

「こまき市民活動祭」3年に1度小牧市内で活動する市民活動団体・ボランティア団体・学校・企業・行政が集まり、市民活動や社会貢献活動の大切さを市民にPRする。企業も社会貢献活動のPRの場として参加している。

(大口町) 以下の5つの事業を実施している。

### 【協働に関する事業】

団体の活動発表の場 まちづくり協働フォーラム (年1回)

2市3町ふれあい協働フォーラム (年1回)

### 【NPO 促進に関する調査・情報の提供】

ボランティア団体の情報の提供及び広報紙おおぐちモード紙面での団体の紹介 (年6回)

### 【活動支援事業】

書類印刷等の事務支援、コーディネート業務、受付代行、販売代行

一般・団体向けスキルアップ講座 (年2回うち1回は団体交流会)

人材発掘講座 (年2回)

夏休みチャレンジ講座 (年1回) 子ども向けに登録団体に講師になってもらい講座を開催。

相談業務 (団体設立から登録、助成金や会計相談等)

地域活動の応援 (相談体制の充実、地域に出向いて情報収集)

### 【情報発信・広報】

おおぐちモードの発行 (年6回) 広報に折込み、HP・ブログの更新

### 【町民センター管理・運営】

町民センター利用者説明会・交流会 (年1回) より良いセンターを目指して利用者から意見を聞き、相互の交流を図る。

## ・活動団体同士の交流や情報交換などのコーディネート業務をどのように行っていますか。

(小牧市) 毎年行っていた「こまき市民活動祭」を3年に1回にし、規模を拡大したことで一般の方も集まるようになっている。市民活動祭のない年は、年2回団体同士の分野別交流会を行っている。

## ○相談業務について

(小牧市) 窓口、電話での相談のほか年間 60 件程度、団体の活動場所に出向いて情報の収集(アウトリーチ)と提供を行っている。

(大口町) 相談業務のアドバイザーはセンターのスタッフが兼務している。

## ○補助金・助成金について

### ・センターでの業務について

(小牧市) 小牧市市民活動助成金申請団体への助言指導・相談、申請受付、企画提案発表会及び実績報告会の企画運営を行う。

市民活動促進委員会が市民活動助成金の審査選考を行う。企画提案発表会は公開だが、審査は非公開で、評価基準に基づく採点評価と審査委員合議の加除評価の総合評価で実施する。

市民活動促進委員会は、小牧市市民活動推進条例に基づき設置されている審議会等に該当する委員会であり、年間 10 回程度、会議を開催。

(大口町) 大口町元気なまちづくり事業助成金及びまちづくり道具箱整備事業助成金の申請団体からの相談、申請受付、公開プレゼンテーションの運営を行う。

まちづくり活動促進委員会は、町の非常勤特別職として任命し、元気なまちづくり事業助成金及びまちづくり道具箱整備事業助成金の審査選考を行う。公開プレゼンテーション後、審査を行う。

## ○情報発信について

### ・活動団体の組織運営、活動内容などの情報収集・情報発信の方法

(小牧市) 窓口での相談及びアウトリーチによる情報収集、団体が発行しているチラシや SNS 等から情報収集を行っている。アウトリーチの際には、団体の代表者だけでなく、会員にも話を聞いてコミュニケーションを図っている。

市民活動センターニュース(年 4 回発行、毎回 900 部印刷)、HP にて情報発信を行っている。情報発信の強化のため、団体の活動スケジュールや団体の紹介を増やしていく予定。

(大口町) まちづくり情報誌「おおぐちモード」の発行と HP での紹介を行っている。情報収集については、団体からの申し出やチラシから行っている。

